

教員向け情報提供②

～大学入試の現状について～

進路便り No.14 では「共通テストの現状」についてまとめました。今回は、ベネッセ主催の第 1 回出願指導研究会の資料から「大学入試の現状」について報告します。

1 近年の入試概況

- ① 安全志向は見られない。(国公立、私立いずれにおいても、受験生は強気の志望を貫いている。)
- ② 文系と理系で明確な人気の偏りは見られない。
- ③ 学校推薦型・総合型選抜では募集人員が拡大する中で志願者数が減少 (入学枠の拡大に対し、志願者数の増加が追いついていない。)
- ④ 大学志願者数が減少する一方で入学者数は増加傾向 (18 歳人口減少に伴う競争の緩和)
- ⑤ 既卒生の減少が続き、現役生中心の入試が展開
- ⑥ 地元志向 (首都圏有名私大の指定校枠配分を首都圏進学校に多く配分している傾向がある。そのため、有名私大の一般入試の難易度が上昇し、地方から首都圏への流入が困難になっている現状がある。)

2 共通テストの概況

- ① 共通テストの志願者数・受検者数は減少するも、受験率は回復傾向 (難関狙いの一定層の存在)
- ② 共通テストの平均点は文理ともに上昇傾向 (難関狙いの必須関門)

3 国公立大の入試概況

- ① 国公立大の志願者数は難関国公立大学以外減少傾向 (国公立大の二極化?)
- ② 国公立大が二極化するも、難関以外の国公立大は一定水準以上の学力を要求する。(全入ではない)
- ③ 後期日程の欠席率は上昇傾向 (共通テストで一定水準以上の得点を得た場合、後期日程まで諦めずに受験を続けることが合格に繋がりやすい。)

4 私立大の入試概況

- ① 私立大の一般選抜の志願者数は減少傾向。
- ② 一般方式の実質倍率は上昇。共通テスト方式の実質倍率は低下。(受験者数はともに減少)
- ③ 共通テストで一定水準以上得点した者の場合について、一般方式のみを受験した者よりも、一般方式と共通テスト方式の両方を受験した者の方が合格率は高い。
- ④ 首都圏有名私大の合格率は高偏差値帯で高止まり傾向

5 学校推薦型・総合型選抜の入試概況

- ① 学校推薦型・総合型選抜による入学者が過半数を占める。(2021 年度以降一般型と逆転した)
- ② 募集人員が拡大する中、志願者数は減少。
- ③ 国公立大は文系学部で志願者数が減少。
- ④ 語学、法学、理学、工学系統などでは、募集人員に対して合格者数が少ない。(到達度試験となっている。全入ではない。)
- ⑤ 学校推薦型選抜では「基礎学力」、総合型選抜では「前向きに取り組む姿勢」や「卒業後の展望」を重視する傾向。また、「面接」や「プレゼン」・「レポート」も重視。(新しい学力観による選抜)